

受けて乳がん検診

一字一筆 静岡の今



「ちびまる子ちゃん」で知られる漫画家・さくらももこさんが8月15日、亡くなった。享年53歳。主人公ちびまる子ちゃんの何げない日常のほのぼのとした出来事に自らを重ね癒やされた人たちの間に、悲しみと

感謝の気持ちがあふれるように広がった。さくらさんが旧清水市(現静岡市清水区)出身だったことを誇りに感じる静岡人も多い。川勝平太知事は記者会見で、中国浙江省を訪問した際に現地の子供たちが「おどるポンポコリン」のダンスで歓迎してくれたエピソードを披露。「(さくらももこさんは)日本の財産」と天

折の漫画家の死を悼んだ。静岡市民栄誉賞も贈られる。さくらももこさんの命を奪ったのは、「乳がん」だった。乳がんで死亡する女性の数はこの30年間で3倍になったという数字もある。

国立がん研究センターはこのほど、がんと診断された人が3年後に生存している割合を示す「3年生存率」を初めて公表した。それによると、すべてのがんの平均は71・3%。乳がんは95・2%で、前立腺がんの99・0%に次いで高い。この数字は早期にがんを発見し、早期治療すれば乳がんで命を落とすことは少ないことを示している。それにはまず乳がん検診を受けることだが、本県の40〜69歳の女性の乳がん検診の受診率は45・4%(2016年)にとどまっている。

9月は「がん征圧月間」で、22日、県対がん協会の「がん征圧大会」が静岡市葵区で開かれた。がんの講演や女性タレントのがん体験談に交じって、県から「がん対策推進計画」が説明された。その中で、乳がん受診率を2023年までに50%以上にしたいという。大会に参加した約400人のほとんどが女性だった。ちびまる子ちゃんファンなら、きっと乳がん検診を受けてくれると思うた。

「ちびまる子ちゃん」のマンホールには今も多くの人が撮影に訪れている＝静岡市清水区、全日写連・藤田寛司さん撮影

(前静岡県監査委員 富永久雄)